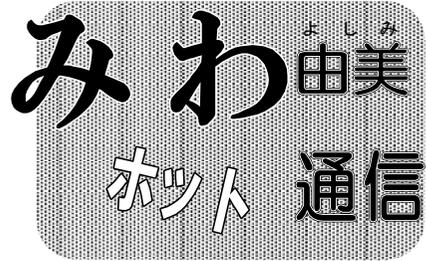


日本共産党県議会議員

見える身近なみんなの県政を



再刊第4号 2008年5月31日
日本共産党みわ由美事務所
Tel 047-349-1544 Fax 047-349-2293
〒270-2252 松戸市千駄堀1810-2
http://www.jcp-chibakengikai.jp/

驚いた！上野駅で多喜二に会った



県議会議員 みわ由美

お仕事帰りに立ち寄った上野駅のブックストア。えっ？「なぜ今？ワーキングプアって『蟹工船』なのでは？よむとおもしろい、違和感ないのがすごいです・・・」

2冊購入した。みわ由美
— 4ページに続きます —

仕事帰りに立ち寄った上野駅のブックストア。えっ？「なぜ今？ワーキングプアって『蟹工船』なのでは？よむとおもしろい、違和感ないのがすごいです・・・」

書きの文字に、私は胸がドキドキした。「蟹工船」を抱きしめた。ここには『未来』がある。東京のど真ん中で、苦悩する労働者たちに愛された多喜二がいる！



JR上野駅構内の書店で

それって「蟹工船」じゃん？ (派遣の青年たちの会話)

小林多喜二

1903年、秋田県大館市生まれ。特高警察の非道な弾圧を描いた「一九二八年三月十五日」でプロレタリア作家として注目される。1933年2月20日、特高警察に逮捕され、その日のうちに虐殺される。多喜二と面識のあった志賀直哉が日記に「不図、彼等の意図ものになるべしといふ気する」と書いたことはよく知られている。

「蟹工船」とは、北洋でとったカニを直ちに加工する「移動缶詰工場」のような船。船での労働条件はすさまじく、不潔な船内と粗末な食事、連日の超長時間・過密労働による病死や、絶え間のない監視と虐待が当たり前の奴隷労働だった。

ついに労働者が団結して闘争に立ち上がる。一度は日本海軍に代表が拉致されるが、再び闘争に立ち上がる。

小説「蟹工船」



「おい、地獄に行くんだぞ！」

で始まる蟹工船が、今年に入って百万部を突破。丸善丸の内書店など大手書店では、店頭広告を出し平積み。例年の五倍の勢いで売

れたい。異なる例の増刷。息子の世代の若者が、この「出だし」の小説を、みようと、現実、

「人を人として扱ってほしい！」

抑えられ、涙をわけもなく私は、涙を... 抑えることができなかった。
「人を人として扱ってほしい！」
— 28歳の店長の会

見。まっすぐな怒りと強い覚悟に、感動した。「蟹工船」を読め。それは、現代だ」(20歳)

「私の兄弟たちがここにいたのではないかと錯覚するほどに親しみ深い」(34歳ネットカ)



